

23) 血漿交換等により救命しえたライ症候群
の1例

渡辺 徹・坂野 忠司 (新潟市民病院)
佐藤 雅久・小田 良彦 (小児科)
中村 亨道 (同 循環器科)

ライ症候群は、先行感染後に嘔吐、意識障害、けいれん、肝の脂肪沈着、GOT、GPT、LDH、CPKの上昇、高アンモニア血症等を特徴とする、予後不良の疾患である。

今回我々は、3才の本症男児に対して、血漿交換療法を含めた集中治療を施行し、神経学的後遺症を残さず、救命しえた。

本症の発生には、血清中のミトコンドリア抑制因子が重要な役割を果たしているものと思われ、この除去という点から血漿交換療法は試みるべき治療法であると思われる。

特別講演

救急医療と大学病院のかかわり

信州大学医学部附属病院長

同 麻酔学教授

清野 誠 一